



賛否両論のメロン。賛否両論の理由は、メロンなのにシャリシャリサクサクで酸味があること。さっぱりした甘さと食感がやみつきになり、どんどん食べたくなると好評の反面、メロンらしくないという声もあります。こればかりは一度食べてみるしかない！市場に回ることはほぼないので、作ってみるしかない！

マフワリに近いので栽培はとてモラク。株間60cmに植え、本葉5枚程度残して親づるを摘みしたら子づるを2本伸ばします。1株で6〜8個の収穫ができます。果皮が橙色になり白い溝部分が黄色くなったら収穫期です。

メロン
ヨーグルとメロン

最近サルの出没情報も頻繁になっており、中山間地の畑は特に気になるところです。へびウリは、名前の通り1mくらいの細長いへびのようなウリが、棚からぶら下がります。これが人間もびっくりしますが、サルなどの害獣もとてもびっくりするので畑に寄りかからない効果があるようです！ どのくらいの効果があるかはわからないですが、やってみる価値はあるかも。ただ驚かすだけでなく、食べることもできます。別名が「セイロンウリ」。インドやスリランカ、東南アジアでは食用に栽培されています。くせがなく淡泊な味なので、漬物やサラダ、炒め物、現地のようにカレーにも使えます。

霜の心配がなくなる5月から植え付けられます。サル対策には棚仕立てにしてぶら下げた方が効果があると思われれますが、地這いでも育てられます。棚に届くまでは子づるを摘みながら親づるを伸ばし、棚に届いてから摘み子づるを3〜4本這わせませます。カラスウリの仲間なので白い美しい花を咲かせます。人工授粉すると実が付きます。食用にするには10〜20cm位の若い実が柔らかく食べることが出来ます。それより育った場合は皮を

ウリ
へびウリ

最近では知名度も上がってすっかり定着したルッコラですが、セルバチカというルッコラをご存じですか？「ワイルドルッコラ」とも呼ばれる原種で、一般的なルッコラよりもゴマ風味も辛みも強いです。葉の形も一層切れ込みが深くて特徴的です。加熱すると風味が飛んでしまうので、サラダに加えたり、料理の最後に散らしたりするとおいしく食べられます。

種まきは春と秋。プランターでも気軽に育てられます。播種後1〜2ヶ月で葉を摘んで収穫できます。日当たり

ルッコラ
セルバチカ



剥いてワタを取って食べましょう。完熟すると果皮が赤や黄色になります。

今回紹介した作物の苗は、各グリーンファーム店で取り扱いがあります。苗は4月下旬〜5月上旬に販売予定です。詳しくは各店にお問い合わせください。



の良い場所の方が育ちますが葉が硬くなって食べにくいので、半日陰の場所で栽培したり寒冷紗などで遮光してやると良いでしょう。風味が強い分害虫の被害は比較的少ないようです。肥料は少な目の方がえぐみが少なくなります。土が乾いたら水をやれば良いですが、乾かすすぎてしまうと辛みが強くなるので注意しましょう。夏はトウ立ちします。

- ◎中央店 ☎29-8177
- ◎東部店 ☎62-0665
- ◎よだくほ南部店 ☎85-2400
- ◎しおだ店 ☎39-8118

ほうさくClub!に関するお問い合わせは、各グリーンファーム店まで



第246回
今月は

ほうさくClub!



ちょっとめずらしい作物の紹介

あけましておめでとうございます。2023年もちょっとめずらしい作物の紹介から始めましょう。気になるものがあつたらぜひ作っててください。きっと家庭菜園がもっとワクワクしますよ!

キュウリ
きゅうりの豊速



節なりなので基本的に親づるの節に成ります。本葉5枚目くらいからの節にも実るくらいの超節なりキュウリ。早くから着果するため、わき芽がほとんど出ず、うるの管理をしなくてもいいのがとにかくラクです。プランターや狭い場所、支柱だけの栽培も可能です。なり疲れしやすく栽培期間は短めですが、早い時期から豊産です。春に植え付けるのはもちろんOKですが、きゅうりの豊産の使い方としては夏植えに面白味があります。一般的なキュウリが病気などで成りにくくなる夏に植えて、秋に採る方法です。定植してから収穫までの期間が短く、寒くなるまでに満足できる収量を上げることが出来ます。

株間はキュウリとしては狭めの40cm程度でも大丈夫です。豊産タイプなので肥料切れを起こさないように、追肥を2週間に一度やりましょう。

ミニトマト
プリティール



ドワーフトマト(小人のトマト)と呼ばれる矮性のトマトの一種です。大きなならないのでプランター栽培に最適です。草丈は低くても実の大きさは一般的なミニトマトと同じなので、大きな実がなっているように見えるのも面白いです。なによりも助かるのは芽かきの必要が無いこと。手入れがとてラクです。通常プランター栽培をする場合はできるだけ大きな鉢に植えますが、この品種は7号鉢のような小さな鉢でも大丈夫なの嬉しいポイントです。小さく育てられるので、寒くなってきたら屋内に鉢ごと入れることができます。